



生物多様性条約SBSTTA24/SBI 3 (ポスト2020枠組み交渉) の行方

国際自然保護連合日本委員会 事務局長


道家哲平

(日本自然保護協会)

2021年6月

IUCNおよびIUCN-Jについて

- 国際自然保護連合（IUCN: International Union for Conservation of Nature）は、1948年に設立。国連に自然保護を担う組織ができなかったことから、民間の団体や政府関係者、有識者、研究者から作られた。現在、1300の会員団体、16000人の専門家、1100人の事務局からなる世界最大の自然保護ネットワーク
- 世界遺産条約の自然遺産の助言機関、ラムサール条約の事務局、国連総会の“自然関係”で唯一の常設オブザーバーなど国際環境条約の実施に高い影響力
- 世界の絶滅の恐れのある種のリスト（IUCNレッドリスト）、効果的に管理される保護地域リスト（グリーンリスト）などの世界ツールを提供。
- 1980年に、「持続可能な開発」という言葉を提唱するなど、自然保護の理論・実践の方向性を打ち立てるなど、自然保護ビジョン形成での貢献も高い。
- 日本委員会（IUCN-J）は、日本のIUCN加盟団体からなる連絡・連携組織



私たちの未来を決める 国際交渉がオンラインで 見られる時代がやってきた

現在、SBSTTA24、第3回条約の実施に関する作業部会が、オンライン（史上初）で開催中。ポスト2020枠組みにとって重要な会合

PlenaryはYouTubeで公開

Contact Groupは非公開

オンライン交渉会議の様子

メインスピーカー
ムレマCBD事務局
長

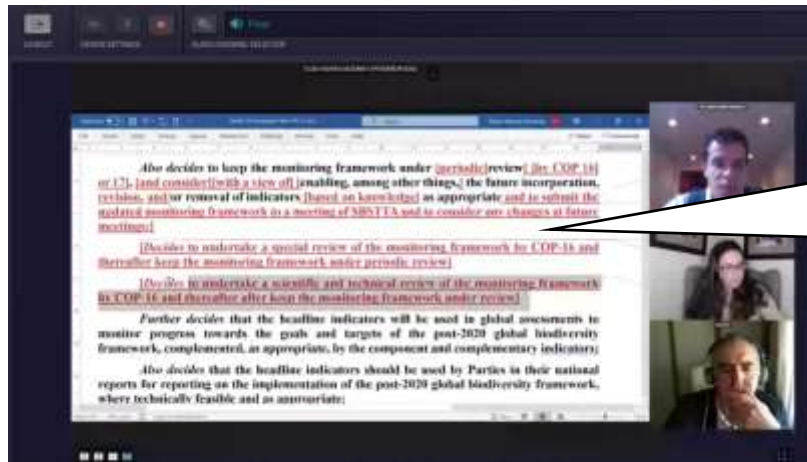


SBI議長
シャルロッタ氏

交渉官専用チャット

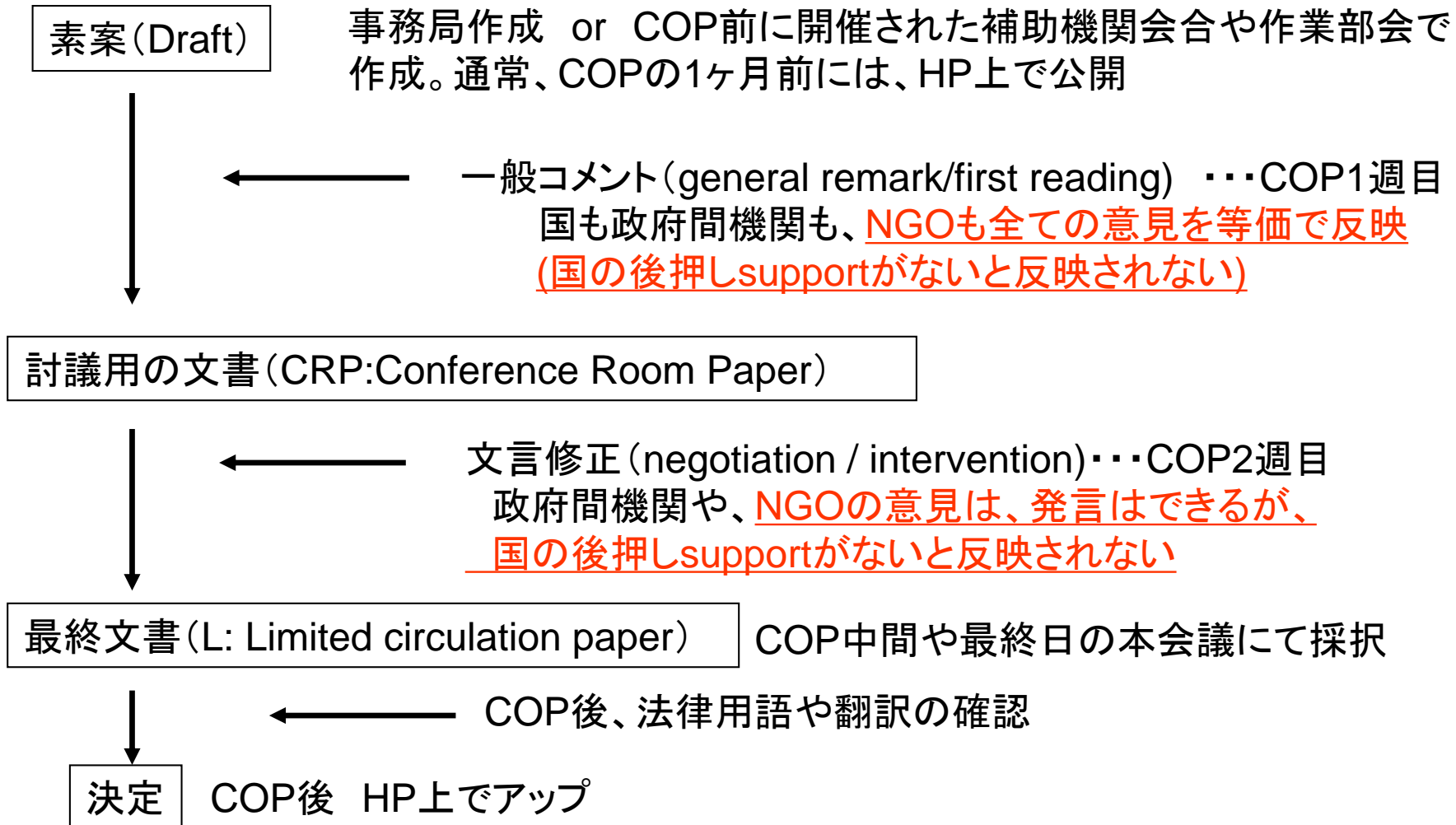
ネットが繋がらないとか
文書の修正案の共有
国やNGOの発言の支持

CBD事務局



コンタクトグループでは
文章の修正案などをワードのトラック機能
を使いながら、議論。

参考：COP決定やCOP勧告案（Recommendation to COP）の形成過程





SBSTTA24は8つの議題に対して、ポスト2020枠組み(5セッション)、海洋沿岸生物多様性(2セッション)、合成生物学(2セッション)、リスク評価と管理(2セッション)の4つのコンタクトグループが立ち上がって議論されました。(1セッション3時間)。

SBI3は、12の議題に対して、議題5.ポスト2020枠組み(カルタヘナ議定書関連能力養成、3セッション)、議題6.資源動員・資金メカニズム(5セッション?)、議題7.能力養成・科学技術協力(3セッション)、議題9.報告・評価(2セッション)、議題13.多国間利益配分メカニズム(2セッション)、の5つのコンタクトグループが立ち上がりました。議題11については、フレンズオブチェア会合



夜8時または
深夜1時から

3~4時間の傍聴

ポスト2020枠組みに関する全体像

自分自身の整理も兼ねて、、、

ポスト2020枠組みの構造（ドラフト0.2）

今回の作業（大枠）

2050年人と自然の共生
（愛知で共有された未来像を継承）

↑
2050ゴール+2030マイルストーン（ビジョンをより具体化した状態）

↑
2030ミッション（私たちの使命）

↑
2030行動目標（2030マイルストーン（状態）に導く20の行動）
生物多様性への危機を減らす（7）+人々の需要を満たす（5）
+実施ツール（8）

↑
実施手法、条件整備、責任と透明性、アウトリーチなど

ゴールや目標設定の妥当性。
• SMARTな目標。
• 目標に含む要素の適否
• この妥当性を説明する文書（=GBF解説書）の確認：
SBSTTA

モニタリングや報告のための指標の整理（3段階）：SBSTTA

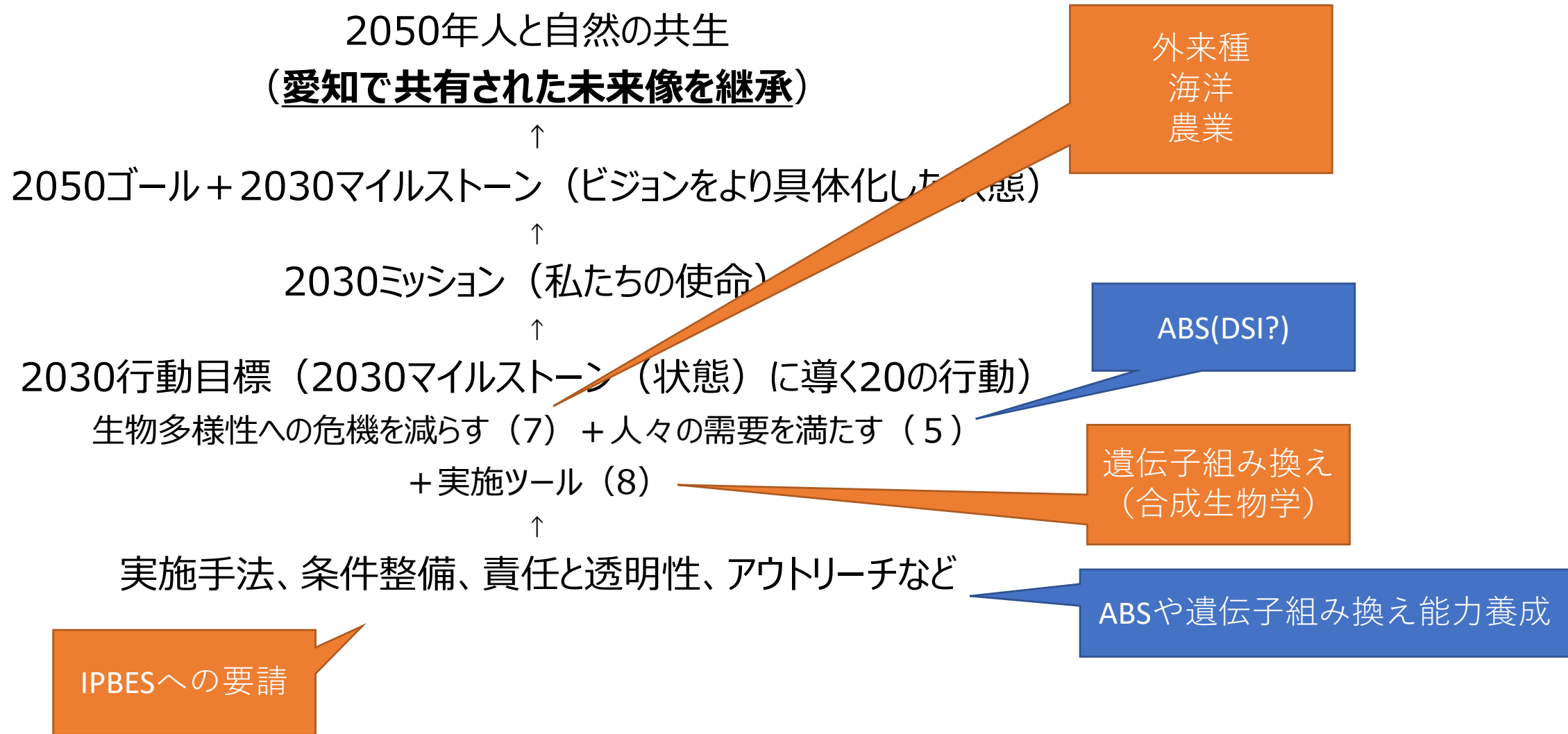
能力養成、技術移転、資源動員、資金メカニズム（GEF）、コミュニケーション、IPBES含む他機関連携、主流化：SBI
報告（PDCAサイクル）：SBI

GB05の評価

戦略計画2011-2020、カルタヘナ議定書実施評価

ポスト2020枠組みの構造 (ドラフト0.2)

今回の作業 (テーマ)



10年の流れで見たとき。

人と自然の共生に
に向けた第3フェーズ
(2030-2040)

合意された
世界目標のレベル

2030年の到達
点（マイルス
ストーン）？
適切な目標と
指標設定？
IPBESとの連動
？

国別報告(2023)とCOPを
活用したギャップの把握と
コミットメントの呼びかけ

国別報告(2027)とCOPを
活用したギャップの把握と
コミットメントの呼びかけ

国家戦略全改定or
目標値部分の再調整

生物多様性取組の発展

生物多様性
コミットメント？

生物多様性
コミットメント？

どの指標で報告や、モニタリング（PDCAを回す）？
能力養成や技術移転、資源動員は？
他の条約との連動は？

生物多様性
コミットメント？

国家戦略全改定or
目標値部分の再調整

2018

COP14

2020

COP15

2022

COP16

2024

COP17

2026

COP18

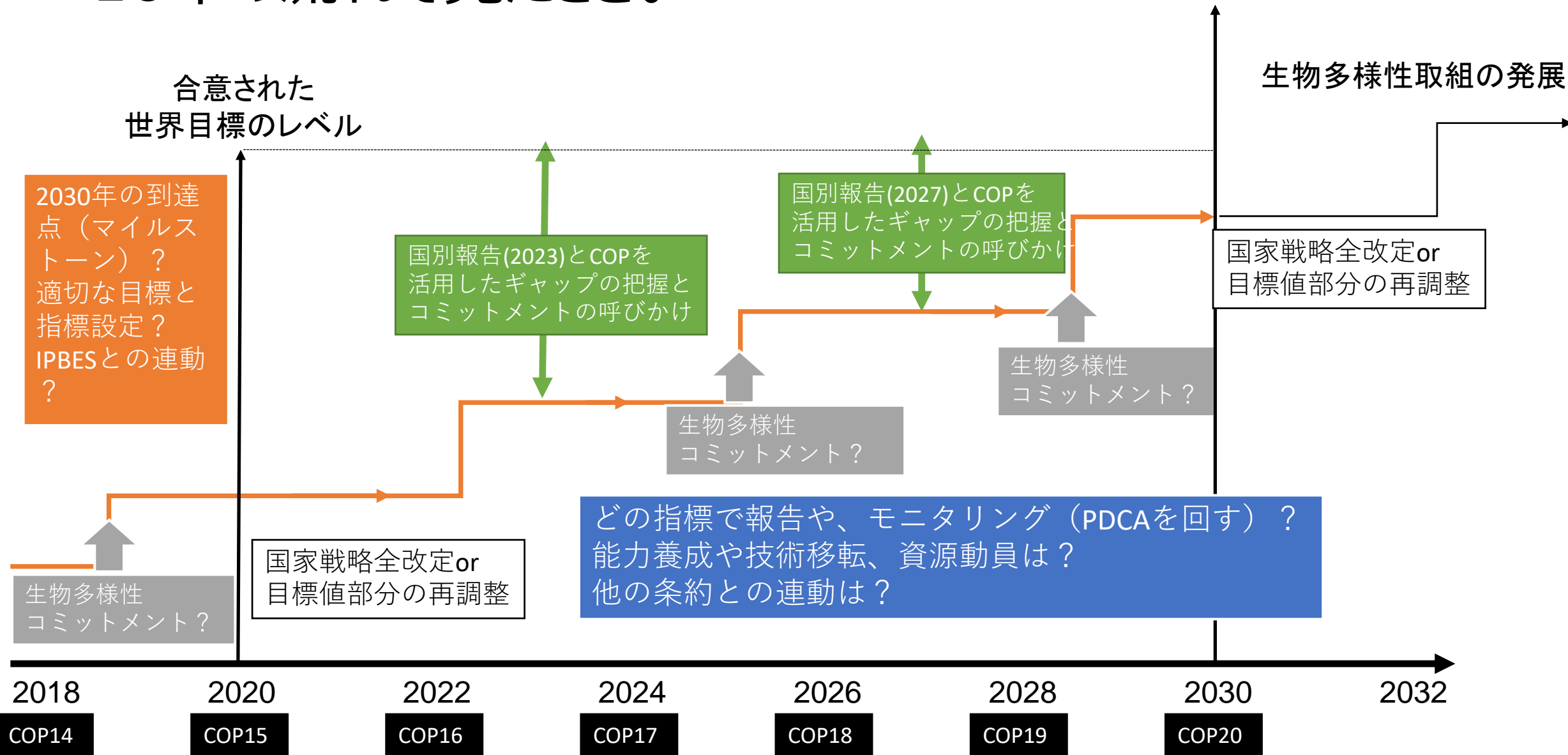
2028

COP19

2030

COP20

2032



GBFの検証

- 各行動目標を構成する要素の明確さ：例えば、プラスチック廃棄の減少という目標設定について、**全てのプラスチックとするか、管理不十分で流出するプラスチックとするべきか**。グリーンスペースという概念に、生物多様性（園芸種ではなく、より固有種を尊重する視点など）の要素が入っているかという共通理解の確認。
- 過不足：例えば、愛知目標11（保護地域）と比較して、**連続性や管理の質**の要素が現状の後継目標（行動目標1-2）に欠けているのではないか。
- 数値目標を設定するのにより適した要素の検証：例えば、**外来種の侵入率より、定着数の抑制を目標値にする方が把握が可能**。ABSは重要だが、共有されたbenefitを把握するのは、協定の内容が秘密になることもあるので、捕捉が難しいのではないか。
- 各行動目標に関する解説（[CBD/SBSTTA/24/3/Add.2/Rev.1](#)）の記述の過不足：例えば、陸域、海域の30%を保護地域またはOECMとすることの科学的妥当性に関する論文の共有
- 全体を見渡した時の欠けている視点：例えば、**海洋に関する諸課題（海中騒音、海底掘削、海洋資源利用）などへのアプローチが不十分**ではないか。遺伝的多様性の視点が全般的に欠けている。**インフラストラクチャーや金融への言及が欠けている**など

指標

- 指標に関する意見は、目標に関するコメントと連動するもの（例えば、保護地域の「管理の質向上」の目標設定を指摘し、その上で、指標として「IUCNグリーンリストの情報が活用できる」という意見）が多い印象
- PDCAを回せる程度の情報やモニタリングの有無（定期的な評価やチェック）の確認、
- 他の条約やSDGs・国連統計局の情報やUN-SEEA基準など様々な既存取り組みの確認、
- グローバルレベルで測定される指標が国内やローカルレベルで活用できるか（データの累積や分割の可能性）
- 実施ツール関連指標のさらなる研究
- 実施のための途上国の能力養成や途上国への資金支援・技術移転の可能性、各国におけるモニタリング体制の整備
- 指標を科学コミュニティで検証すべき vs 政策レベルで検証すべき
- 多様な情報ソース（市民科学、先住民地域共同体などからのデータ）を活用したい vs 継続性や地域ギャップの検証など
- 実施をはかるヘッドライン指標数を絞り込みたい vs 目標がもつ多様な要素をカバーしたい

指標

- 資源動員や能力養成・技術移転などの全世界的なレベルで実施を支援する仕組みと一体で検討すべき（パッケージディール）
- 指標やデータが不十分であることを、目標の意欲度を下げたり、要素を少なくする理由にすべきではない

不毛な議論も数多く

- 「科学技術的見地から」、、、GBO5の成果を、歓迎するか（Welcome）、留意するか（Take note）、謝意をもって留意するか（Take note with appreciation）
- 地球環境ファシリテーターに、奨励する（Invite）か、要請する（Request）か
- ロビーもなく、発言も限られるため、地球益 vs 国益の議論になかなか引き戻せない進行
- とにかく、従来の交渉プロセスをこなす印象（ビューロでの協議も機能不全？） ⇒ []ブラケット(合意なし) だらけの文書。歩み寄り（Compromise）なき対立、互いの意見交換が未成熟なままの対立など。

今後の進め方

- SBSTTA24・SBI3の成果や意見を踏まえて、ポスト2020作業部会（OEWG）の議長によるドラフト（1.0）の作成と公表（**7月12日に発表する説が浮上**）
- 8月23日から9月3日まで、ポスト2020枠組み**だけを**交渉する 3rd-OEWG（オンライン開催）で検討（交渉）
- 10月11日から24日で開催予定（6月28日時点）の、COP15で最終決定

The image shows a screenshot of the website bd20.jp. At the top left is the logo for the 20th anniversary project. The main navigation bar includes links for 'にじゅうまる宣言をする' (Make the 20th Anniversary Declaration), 'にじゅうまる活動を調べる' (Search for 20th Anniversary Activities), and a search box. Below this, there are several menu items: '今、世界で注目される生物多様性とは' (What is biodiversity attracting attention to in the world now?), '生物多様性を守る 愛知ターゲットとは' (What are the Aichi Targets for biodiversity conservation?), 'にじゅうまる国際会議レポート' (20th Anniversary International Conference Report), and '運営団体' (Organizing Organization). A central banner displays the date '05.02.18' and statistics: '登録団体数 242' (Registered Organizations: 242) and '登録事業数 329' (Registered Activities: 329). Below the banner is a section for the '日本自然保護大賞' (Japan Nature Conservation Grand Prize). The main content area features a '新着情報' (Latest News) section with a list of articles. A green circle highlights the 'にじゅうまる国際会議レポート' link in the right-hand navigation menu. At the bottom, there are more navigation links and a footer area.

bd20.jp
をご覧ください

本資料について

一部解説で表明されている見解は、団体を代表する意見ではありません。

PDFについては、プレゼンについては日本自然保護協会に著作権が帰属しますが、普及のためにご活用ください。その際、「日本自然保護協会作成資料を引用/の一部を改変」など適切な留意事項を付してください

IUCN-J事務局を担う、(公財)日本自然保護協会は、会員の方の会費やご寄付より運営され、このような情報収集・発信を行っています。このような発信活動を継続するためにも、日本自然保護協会をご支援ください
<<https://www.nacsj.or.jp/>>



事務局：
(公財)日本自然保護協会
東京都中央区新川1-16-10
ミトヨビル2F TEL 03-3553-4109
担当：道家 iucnj@nacsj.or.jp